

諫早湾干拓事業の概要

諫早市農林水産部干拓室

諫早湾における干拓事業の変遷

②

①

長崎大干拓構想 1952年(S27年)

- ・優良平地に乏しい長崎県として、
本県食糧の自給自足を図る
(昭和27年10月30日長崎民友新聞に発表)

国営長崎干拓事業 1965年(S40年)

○事業目的

- ・優良農地の造成(水田)
- ・農業用水の開発
(干拓地及び諫早湾周辺地域を対象)
- ・潮受堤防を利用した道路による交通条件整備
- ・工業用地の利用
- ・工業用水の確保
- ・高潮、洪水の防止
(排水不良の改善を含む)

④

国営諫早湾干拓事業

○事業目的 S61年~H20年3月

- ・優良農地の造成(畑)
(干拓地用の農業用水の開発を含む)
- ・高潮、洪水の防止
(排水不良の改善を含む)

長崎南部地域総合開発計画

○事業目的 1970年4月(S45年)

- ・優良農地の造成(畑)
- ・農業用水の開発
(干拓地及び諫早湾周辺地域を対象)
- ・水道用水の確保
(長崎市、諫早市外1市6町を対象)
- ・高潮、洪水の防止
(排水不良の改善を含む)

③



国営諫早湾干拓事業の概要

国営諫早湾土地改良事業計画平面図

事業の目的

- 高潮、洪水、常時排水等に対する地域の**総合防災機能の強化**すること
- かんがい用水が確保された大規模で平坦な**優良農地を造成**し、生産性の高い農業を実現すること。

事業の経緯

- 昭和61年 環境影響評価の実施
事業着手
- 昭和63年 公有水面埋め立て承認
- 平成3年 環境影響評価(変更)の実施
- 平成4年10月 公有水面埋立変更承認
潮受堤防工事に着手
- 平成9年4月 潮受堤防の締切
- 平成11年3月 潮受堤防の完成
- 平成11年12月 変更計画の決定
- 平成14年6月 変更計画の決定
- 平成19年12月 堤防道路供用開始
- 平成20年3月 事業完了
- 平成20年4月 営農開始

計画概要

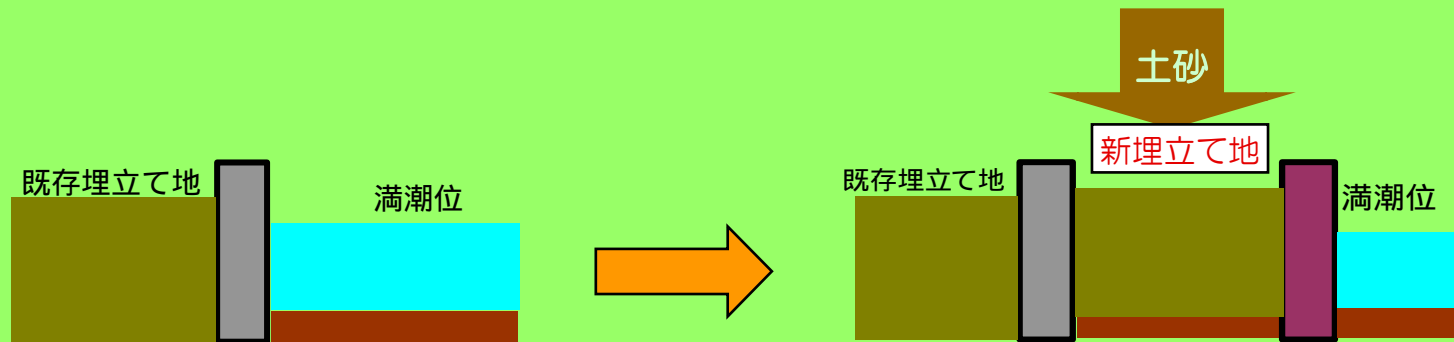
- 計画対象地域：諫早市、雲仙市
- 計画面積：干拓面積約870ha（うち農用地面積約672ha）
- 主要工事：潮受堤防7.05km、排水門（北部排水門：幅225.3m、南部排水門：幅59.9m）
内部堤防約1.1km、調整池面積2,600ha（有効調節容量7,900万m³）
- 営農：41経営体による露地野菜、施設野菜、施設花卉、飼料作物など

●事業費 2,530億円（平成20年3月末完成）

「埋立て」と「干拓」の違い

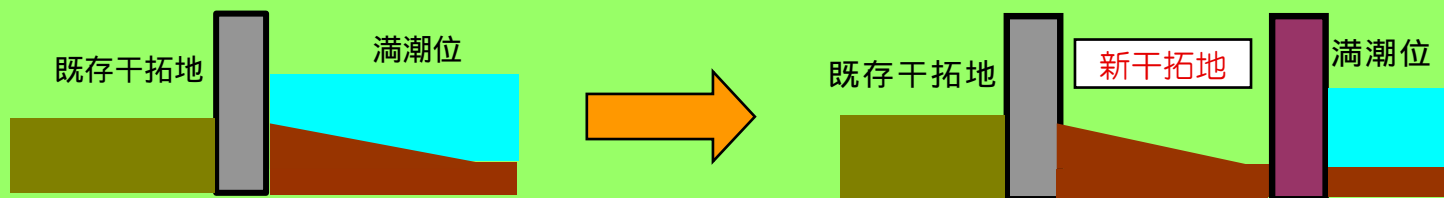
埋立て

海等に土砂を運び入れ地盤を高めて、用地を造ること

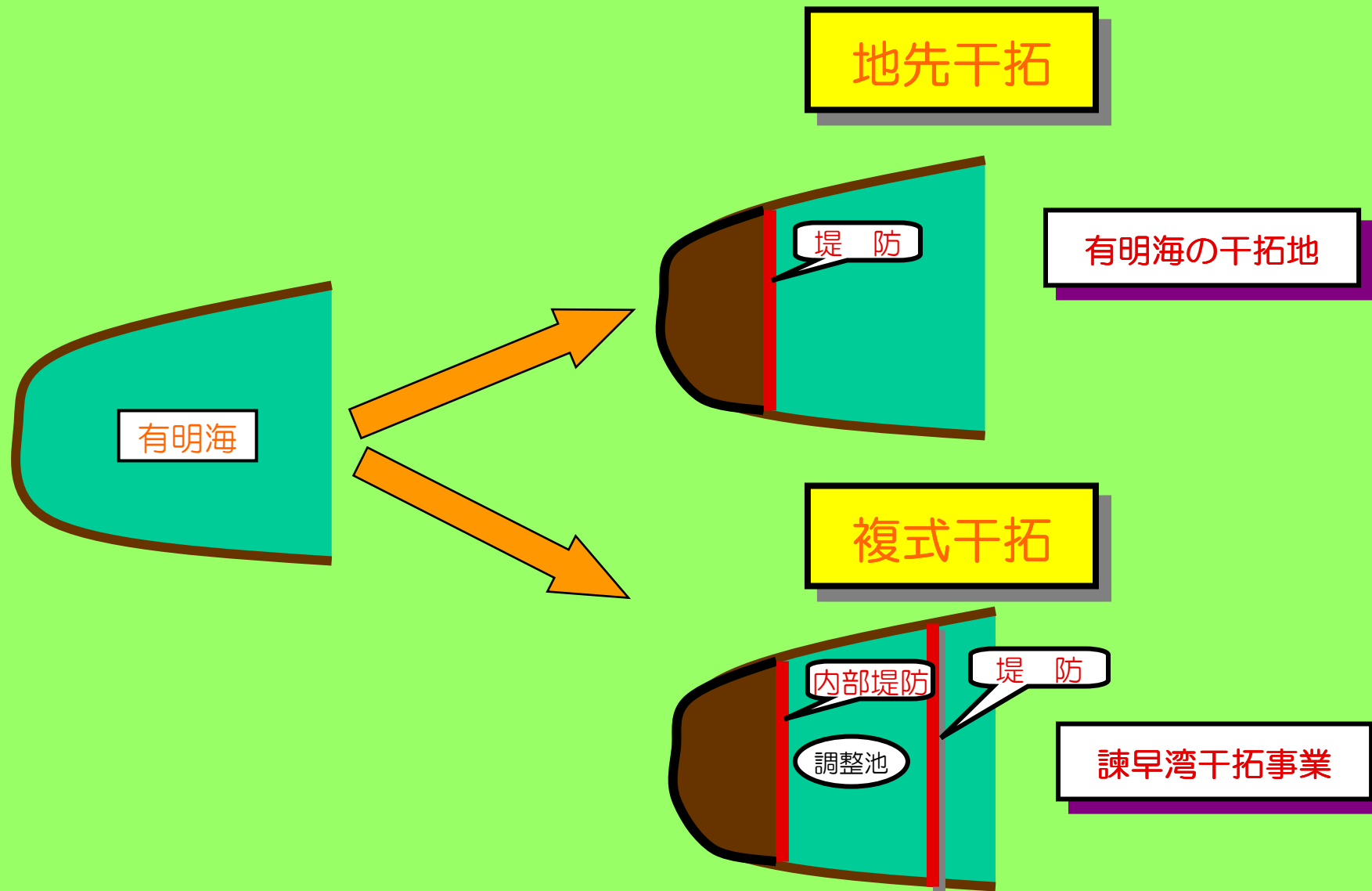


干拓

海等を堤防で締切り、干潟を干して用地を造ること



「地先干拓」と「複式干拓」



諫早湾の干潟形成のメカニズム

- 福岡県を流れる筑後川など大きな河川が、有明海に砂や泥、阿蘇山などの火山灰を運び、それらの砂や泥が河口に沈みます。
- 有明海の中央から奥には反時計回りの潮流があり、その潮流に乗って砂や泥、火山灰が運ばれます。
- 諫早湾などの流れが緩やかなところに溜まっていきます。
- また、有明海は干満の差が大きく、満潮の時に運ばれてきた砂や泥は、干潮の時に取り残され、少しずつ溜まっていきます。

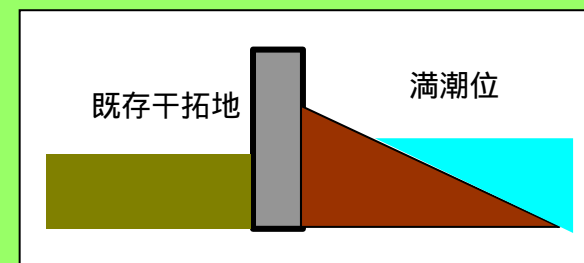
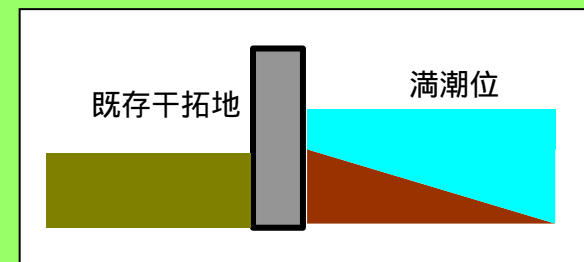
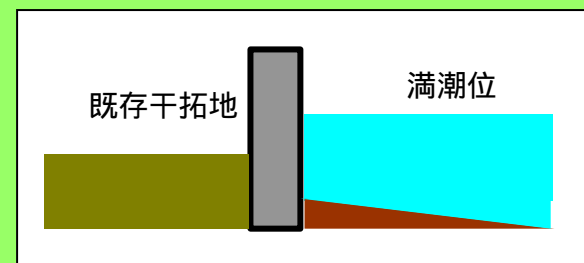
阿蘇・九住山系の
火山灰



諫早湾ではなぜ干拓が必要か

○潮の満ち引きによる泥土の堆積

- ・大きいところで年間約5cm堆積（干潟の成長）



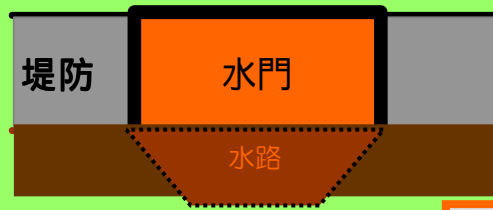
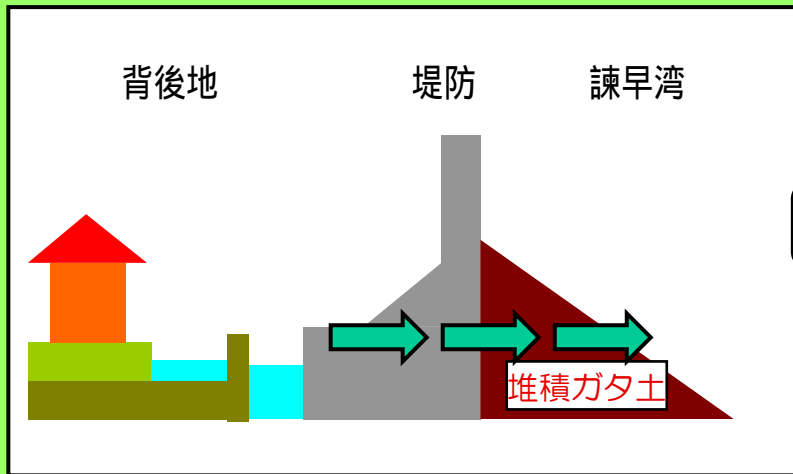
○干潟の形成

- ・小潮の満潮時にも干潟が露出

○背後地の排水不良

- ・大きい所では約2.5mの標高差

排水不良対策

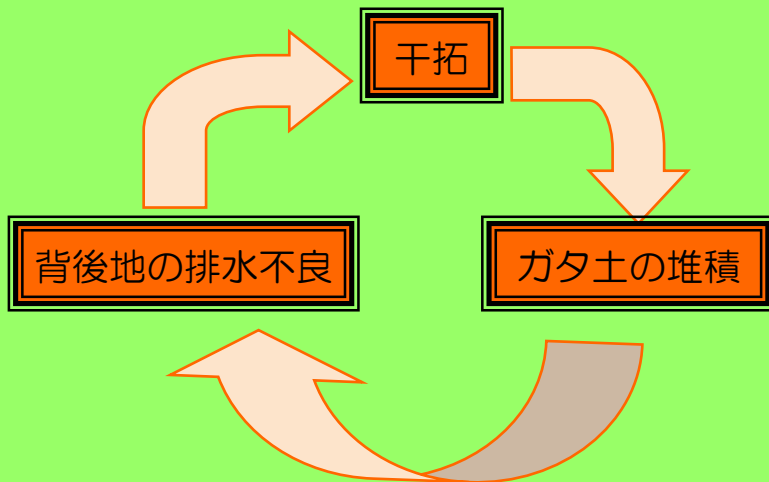


ガタ土の堆積



ミオすじ

諫早湾の干拓は地形的に避けられない



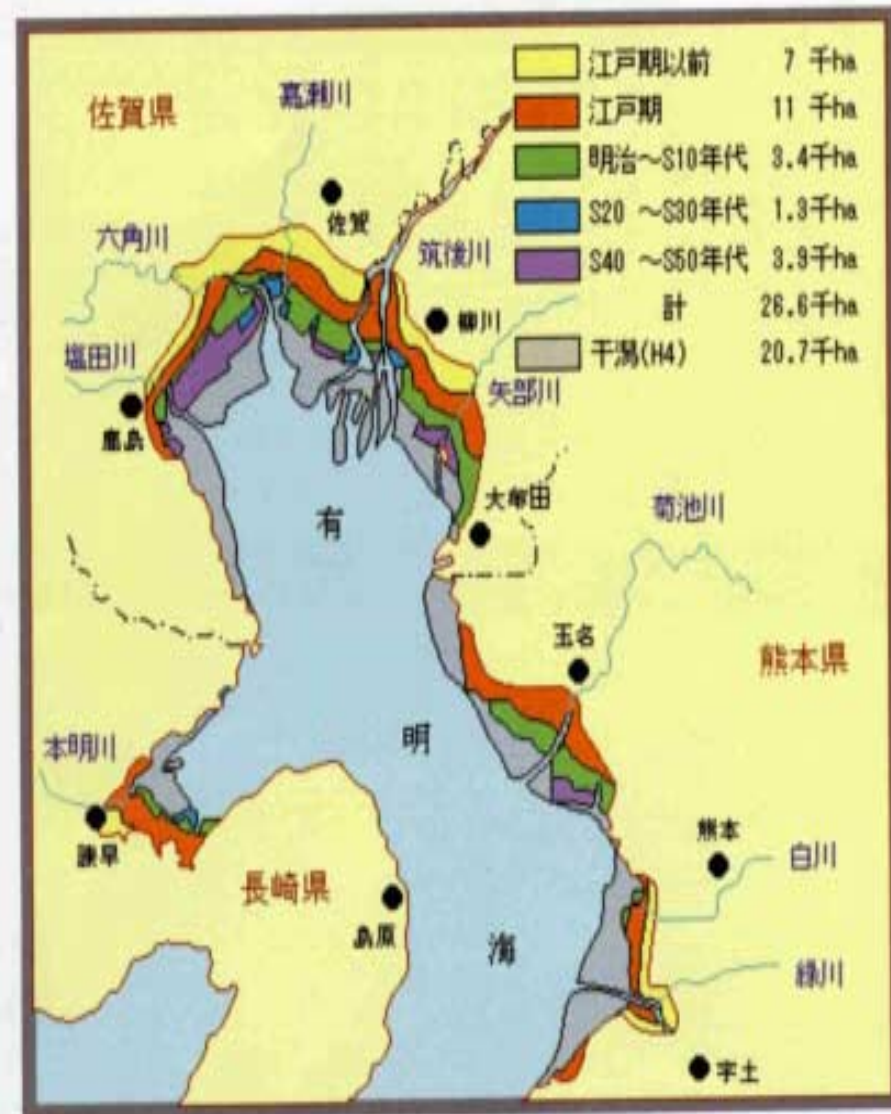
既存干拓地と一体的に整備

有明海は干拓の歴史

- 約1,700km²の広大な浅い海
- 流域面積は8,334km²
- 流入量は145億m³/年
- 干満の差は平均約5m(我が国最大)
干潮時には海岸線から5~7kmの沖合いまで干潟となって露出

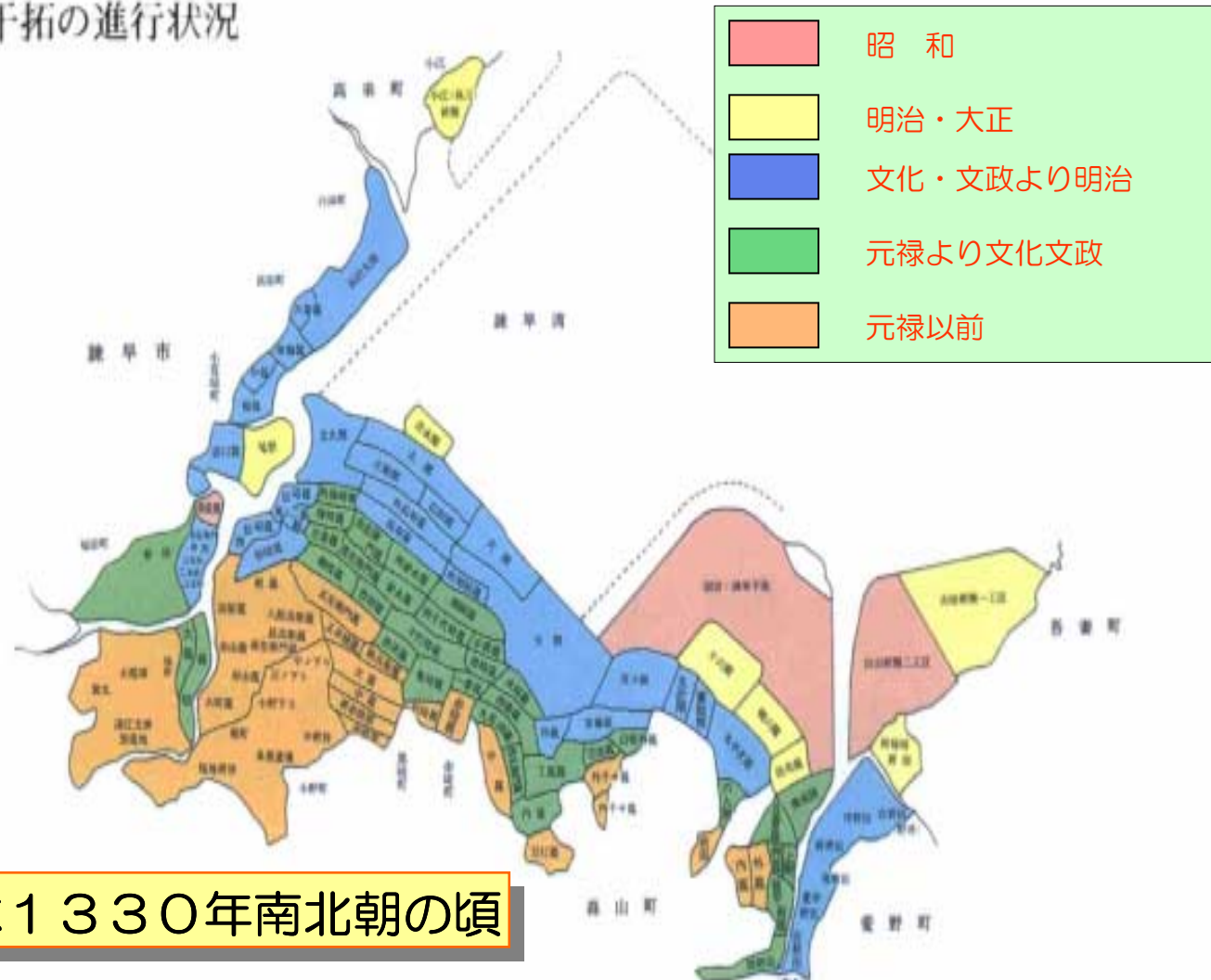
干拓の歴史

- 「50年に一干拓」と言われているほど多くの干拓が行われてきた
- 推古天皇の頃(西暦593から629年)に干拓が始まって以来、これまでおよそ2万7千haの干拓地が生まれている



諫早湾における干拓の歴史

諫早平野における干拓の進行状況



干拓の始まりは1330年南北朝の頃

県下の穀倉地帯と呼ばれる諫早平野約3,500haが干拓

国営諫早湾干拓事業の防災機能の強化

○高潮対策

大潮時に伊勢湾台風が最も危険なコースを通過しても干拓地及び周辺地域に影響を与えない潮受堤防の高さ（標高7.0m）を確保します

○洪水対策

昭和32年の諫早大水害相当の降雨があっても、高潮の影響を受けず貯水できる洪水調整容量（約7,900万ト）を確保します

○排水対策

調整池の管理水位を標高マイナス1.0mに保つことにより、背後地の排水を改善します。

調整池

潮受堤防

○潮受堤防の役割

- ・高潮災害を防ぐ
- ・潮汐の影響の排除
- ・調整池の確保

○調整池の役割

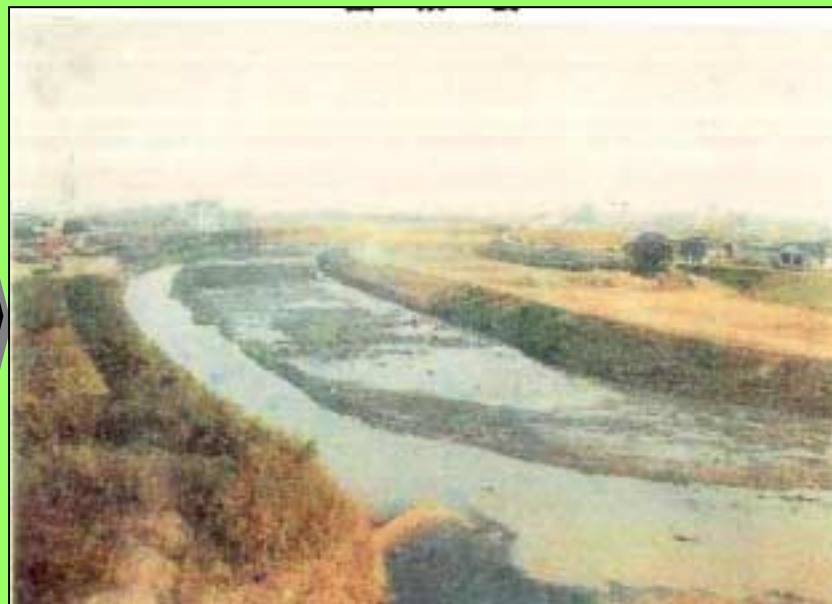
- ・洪水調整容量の確保
- ・背後地の排水を改善
- ・農業用水の確保

国営諫早湾干拓事業による効果

防災面



本明川（河口から3.5km付近）



半造川（河口から5.0km付近）



諫早湾干拓事業完成後



諫早湾干拓事業完成後の営農状況



レタスの収穫状況1



レタスの収穫状況2



スイートコーンの収穫状況



たまねぎの収穫状況



牧草の刈り取り状況1



牧草の刈り取り状況2